

DESIGN-R® の採点と大文字を小文字にするケア計画：症例 1

		初診時	3 週間後	8 週間後
創の状態・評価	臨床像			
	深さ	D: 壊死組織が付着しており創底の深さがわからない	D: 創辺縁と創底に段差あり皮下組織までの損傷	D: 創辺縁と創底に段差あり皮下組織までの損傷
	滲出液	e: 1日1回ドレッシング交換を実施している	E: 1日2回ドレッシング交換を実施している	e: 1日1回ドレッシング交換を実施している
	大きさ	s: 長径 6 cm 長径と直交する最大径 5 cm	s: 長径 6 cm 長径と直交する最大径 5 cm	s: 長径 2 cm 長径と直交する最大径 1 cm
	炎症/感染	i: 局所の炎症徴候なし	i: 局所の炎症徴候なし	i: 局所の炎症徴候なし
	肉芽組織	G: 壊死組織で覆われ良性肉芽はまったく形成していない	G: 浮腫状の豚肉色の肉芽で良性肉芽の形成なし	G: やや浮腫状で豚肉色良性肉芽の形成なし
	壊死組織	N: 硬く密着した壊死組織が付着している	N: 軟らかい壊死組織あり	N: 軟らかい壊死組織が一部あり
	ポケット	p: ポケットなし	p: ポケットなし	p: ポケットなし
	合計点	DU-e1 s8 i0 G6 N6 p0 : 21 点	D3-E6 s8 i0 G6 N3 p0 : 23 点	D3-e1 s3 i0 G6 N3 p0 : 13 点
治療方針 (図 4 に沿って)	<p>N: 壊死組織の除去 → デブリードメント施行 (外科的・薬剤)</p>		<p>壊死組織が除去された後に G: 適度な湿潤環境をつくる → ドレッシング材の選択 肉芽を増殖させる薬剤の選択</p>	
	<p>E: 滲出液のコントロール → ドレッシング材の選択 → 滲出液を減少させる薬剤の選択</p>			
看護ケア	<p>Dのケア 圧迫の除去による血流の改善</p>			
	<p>Eのケア スキンケアによる 創周囲の湿潤・浸軟の防止</p>			
	<p>Gのケア 創面の圧迫・ずれの防止 栄養状態/貧血の改善</p>			
	<p>Nのケア 圧迫の除去 摩擦とずれの防止</p>			

DESIGN-R® の採点と大文字を小文字にするケア計画：症例 2

		初診時	3 週間後	8 週間後
創の状態・評価	臨床像			
	深さ	D: 壊死組織が付着しており創底の深さがわからない	D: 創底 (筋膜) が見えてきた皮下組織を越える損傷	D: 皮下組織までの損傷
	滲出液	e: 1日2回ドレッシング交換を実施している	e: 1日1回ドレッシング交換を実施している	e: 3日に1回ドレッシング交換を実施している
	大きさ	s: 長径 2.5 cm 長径と直交する最大径 2 cm	s: 長径 2.5 cm 長径と直交する最大径 2.5 cm	s: 長径 2 cm 長径と直交する最大径 1 cm
	炎症/感染	I: 創周囲に発赤・熱感あり排膿あり	i: 創周囲の炎症徴候あり	i: 局所の炎症徴候なし
	肉芽組織	G: 良性肉芽はまったく形成されていない	G: 良性肉芽はまったく形成されていない	g: 創面の 90%以上が良性肉芽
	壊死組織	N: 軟らかい壊死組織あり	N: 軟らかい壊死組織あり	n: 壊死組織なし
	ポケット	p: ポケットなし	p: ポケットなし	p: ポケットなし
	合計点	DU-E6 s6 I3 G6 N3 p0 : 24 点	D4-e3 s6 i1 G6 N3 p0 : 19 点	D3-e1 s3 i0 g1 n0 p0 : 5 点
治療方針 (図 4 に沿って)	<p>N: 壊死組織の除去 → デブリードメントの施行 (外科的・薬剤)</p>		<p>壊死組織が除去された後に G: 適度な湿潤環境を作る → ドレッシング材・薬剤の選択 肉芽を増殖させる薬剤の選択</p>	
	<p>E: 滲出液のコントロール → ドレッシング材の選択 I: 感染のコントロール → 感染制御作用を有する薬剤の選択</p>		<p>小文字であるが治癒させるために s: 創部の湿潤環境を 保持・保護 → ドレッシング材・薬剤の選択</p>	
看護ケア	<p>Dのケア 圧迫の除去による血流の改善</p>			
	<p>Eのケア スキンケアによる 創周囲の湿潤・浸軟の防止</p>			
	<p>Iのケア 創・周囲皮膚の十分な洗浄</p>			
	<p>Gのケア 創面の圧迫・ずれの防止 栄養状態/貧血の改善</p>			
	<p>Nのケア 圧迫の除去・摩擦とずれの防止</p>			